

461 花はなを持もたせる

人ひとに勝しょうり利りや名めい誉よをゆずり、相あひて手てをたてる。

462 歯はに衣きぬ着ぬきせぬ

遠えん慮りよなく相あいて手てに思おもったとおりのことことを言いう。

463 羽はねを伸のばす

束そく縛ばくから解か放ほうされ、自じ由ゆうにのびのびと振ふる舞まう。

464 幅はばを利きかせる

勢いせいづいづいて思おもい通とおりに振ふる舞まい、威い張ばる。

465 羽は目めを外はずす

調ちよう子しにのり度どを越こす。

466 腹はらが黒くろい

心こころの中なかでは悪わるい考かんえをしている。

467 腹はらに据すえかねる

怒いかりを我が慢まんできる範はん圍いを越こえる。

468 腹はらの虫むしが収おさまらない

腹はらが立たって我が慢まんできない。

469 腸はらわたが煮にえくり返かえる

激はげしい怒いかりで黙だまっていられない。

470 腹はらを決きめる

覚かく悟ごを決きめる。決けつ心しんする

471 腹はらを割わる

本ほん心しんをすべてさらけ出だし、打うち明あける。

472 張はり子この虎とら

見みかけだけで、実じつ力りよくもなく威い張ばる人ひと。主しゅ体たい性せいがなくうなずいてばかりの人。

473 反はん旗きを翻ひるがえす

反はん逆ぎやくする。従したがっていたものが公こう然ぜんと命めい令れいを聞きかなくなる。

474 膝ひざを交まじえる

お互たがいにうちとけて親したしく語かたり合あう。

475 額ひたいを集あつめる

人ひとが集まつて相そう談だんする。

476 左ひだりうちわで暮くらす

生せい活かつが豊ゆたかかで苦く勞ろうなく気き楽らくに過すごす。

477 筆ひつ舌ぜつに尽つくし難がたい

あまりに度どを越こえていて、文ぶん章しょうや言こと葉はでは表ひ現げんできない。

478 一ひと泡あわ吹ふかせる

不ふ意いを突ついたり、予よ想そう外がいなことをして驚おどろき慌あわてさせる。

479 一ひと筋すじ縄なわではいかない

通つう常じょうのやり方かたでは処しよ理りできない。簡かん単たんではない。

480 一ひと旗はた揚あげる

新あらたに事じ業ぎやうを始はじめる。会かい社しゃなどを興おこして成せい功こうを収おさめる。